

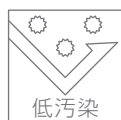
低汚染 高光沢 水性マイクロ反応形アクリルシリコン樹脂塗料

アレスアquaシリコンACII

JIS A 6909 複層塗材 RE 適応上塗材

JIS A 6909 可とう形改修塗材 E 適応上塗材

適用素材 コンクリート、モルタル、サイディングボード等



- **低汚染** 緻密・強靱塗膜形成技術
- **高耐久** 紫外線防御剤導入・高耐候顔料
- **高光沢** 緻密高光沢アクリルシリコン樹脂

アレスアクアシリコンACII

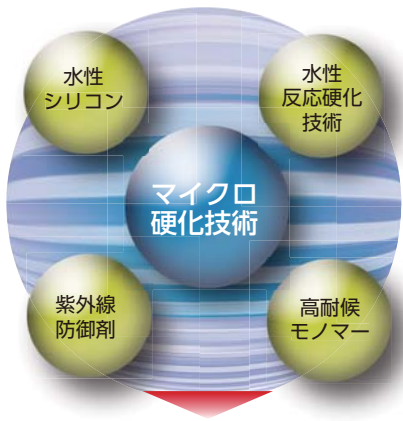
ALES AQUA SILICONE ACII

特長

- 1 **低汚染**
緻密・強靱塗膜形成技術
- 2 **高耐候**
紫外線防御剤導入・高耐候顔料
- 3 **高光沢**
緻密高光沢アクリルシリコン樹脂
- 4 **防カビ・防藻性**
- 5 **安全性**
無鉛・水性

水性反応硬化技術に低汚染性が加わりました。

関西ペイントが開発した水性反応硬化技術は、塗料の商品構成の流れを変え、環境改善に大きく貢献してきました。アレスアクアシリコン ACIIは、この水性反応硬化技術をさらに進化させたマイクロ反応硬化技術を採用しています。これにより水性塗料の常識を超えた低汚染性を発揮するとともに、溶剤形アクリルシリコン樹脂塗料に匹敵する高い耐久性と高光沢仕上げを実現しました。まさしく最強の水性塗料が誕生したのです。

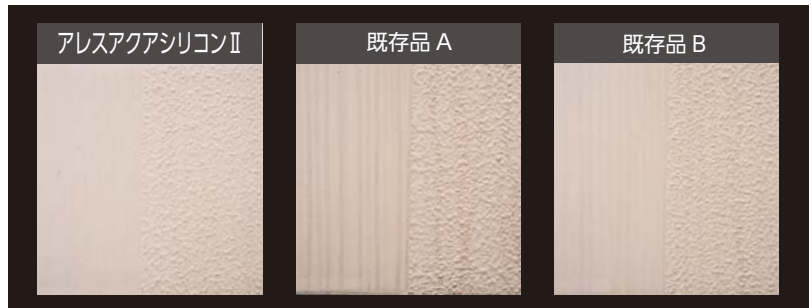
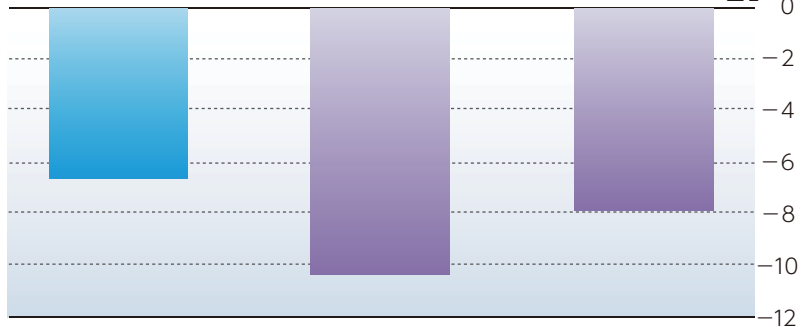


低汚染化

マイクロ反応技術により、塗膜表面が緻密でタックがなくなり、低汚染塗膜を実現。

耐汚染性

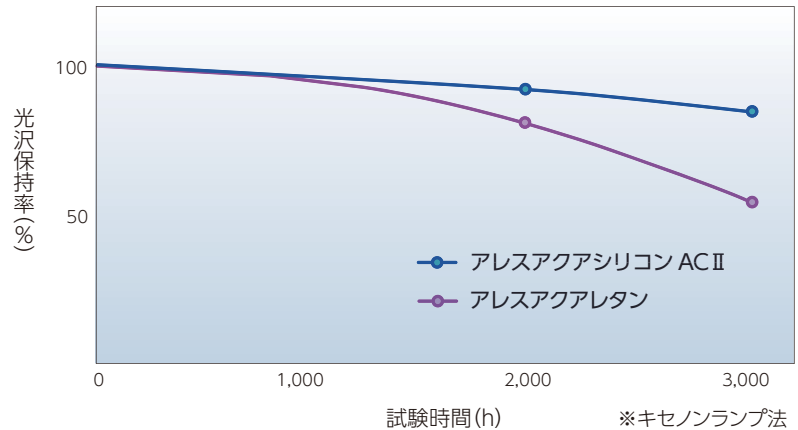
緻密・強靱塗膜形成技術により、汚れが付着しにくくなります。



耐雨筋汚れ性試験板 (屋外曝露：東京都大田区 1年間)

高耐候

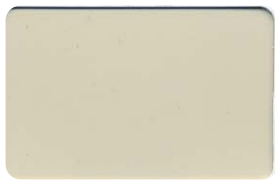
アクリルシリコン樹脂だから耐候性抜群です。



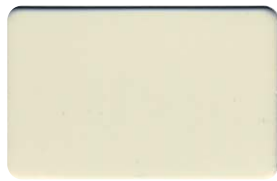
塗膜性能

試験項目	試験成績	試験規格*	
低温安定性	合格	塊がなく組成物の分離・凝集がないこと	
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	合格	ひび割れがないこと	
付着強さ (N/mm ²)	標準状態	1.9	1.0以上
	浸水後	1.7	0.7以上
温冷繰返し	合格	試験体の表面に、ひび割れ、はがれ及び膨れが無く、かつ著しい変色及び光沢低下がないこと	
透水性B法 (ml)	0.1	0.5以下	
耐衝撃性	合格	ひび割れ、はがれ及び著しい変形がないこと	
耐候性A法	合格	ひび割れ及びはがれがなく、変色の程度がグレースケール3号以上であること	

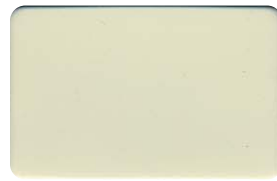
*JIS A 6909 複層塗材REの試験規格【塗装仕様】 下塗り：エコカチオンシーラー 中塗り：マルチタイルラフRE 上塗り：アレスアクアシリコンACII (複層塗材RE適合仕様により)



KP-111



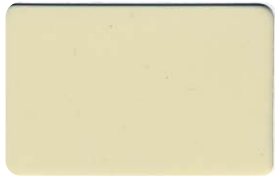
KP-110



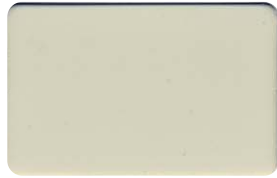
KP-112



KP-223



KP-310



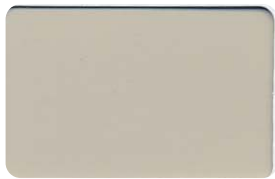
KP-121



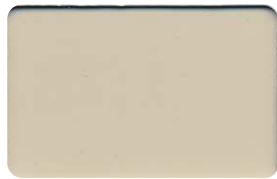
KP-133



KP-221



KP-120



KP-127



KP-131



KP-80



KP-337



KP-336



KP-141



KP-247



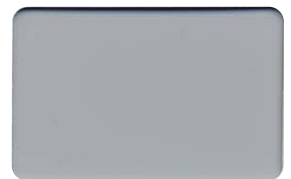
KP-330



KP-147



KP-350



KP-75



KP-347



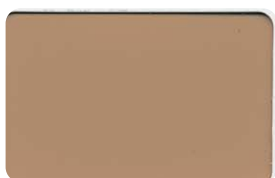
KP-150



KP-352



KP-70



KP-356



KP-357



KP-368 ◎



KP-50



KP-367



KP-167



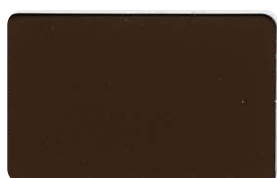
KP-376



KP-379 ◎



KP-170



KP-385 ◎



KP-185 ◎

※この色見本は、紙に塗装していますので
 実際の仕上りと多少異なります。
 ※提案色以外でも日本塗料工業会色見本帳
 などでの調色も可能です。
 ◎印は、材料費が割高になります。

アレスアクアシリコンACII

標準塗装仕様 新設仕様

コンクリート・モルタル系素地

アレスホールド工法

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	エフロ・レタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面とする。(pH10以下、含水率8%以下とする)				
下塗	エコカチオンシーラー	0.13	2時間以上 7日以内	ローラー	無希釈
		0.17		エアレス	
下地調整材 (下塗)	アレスホルダーGII 上水	0.3~1.5	8時間以上 7日以内	ローラー	1~10
				エアレス	7~15
上塗 (1回目)	アレスアクアシリコンACII 上水	0.13	2時間以上 7日以内	ローラー	3~5
		0.16		エアレス	
上塗 (2回目)	アレスアクアシリコンACII 上水	0.13	-	ローラー	3~5
		0.16		エアレス	

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態・塗装方法・環境などによって増減することがあります。

コンクリート・モルタル系素地

複層塗材RE仕上げ JIS A 6909 複層塗材RE・適合仕様

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	エフロ・レタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面とする。(pH10以下、含水率8%以下とする)				
下塗	エコカチオンシーラー	0.13	2時間以上 7日以内	ローラー	無希釈
		0.17		エアレス	
中塗 (ベース吹き)	マルチタイルラフRE 上水	0.8~1.5	8時間以上 7日以内	吹付	0~1
中塗 (パターン吹き)	マルチタイルラフRE 上水	0.8~1.2	8時間以上 7日以内	吹付	0~1
上塗 (1回目)	アレスアクアシリコンACII 上水	0.13	2時間以上 7日以内	ローラー	3~5
		0.16		エアレス	
上塗 (2回目)	アレスアクアシリコンACII 上水	0.13	-	ローラー	3~5
		0.16		エアレス	

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態・塗装方法・環境などによって増減することがあります。

標準塗装仕様 塗替え仕様

コンクリート・モルタル系素地

【適用できる旧塗膜の種類】 各種工マルジョン、リシン、スタッコ、吹付タイル、弾性塗膜などアレスホールド工法 JIS A 6909 可とう形改修塗材RE・適合仕様

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	モルタルの浮き・クラック等は適切な処置を行う。 劣化塗膜やチョーキング・汚れ等を高圧水洗にて除去し、乾燥した清浄な面とする。				
下塗	アレスホルダーGII 上水	0.3~1.5	8時間以上 7日以内	ローラー	1~10
				エアレス	7~15
上塗 (1回目)	アレスアクアシリコンACII 上水	0.13	2時間以上 7日以内	ローラー	3~5
		0.16		エアレス	
上塗 (2回目)	アレスアクアシリコンACII 上水	0.13	-	ローラー	3~5
		0.16		エアレス	

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態・塗装方法・環境などによって増減することがあります。

窯業系サイディングボード

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	欠損、シーリング材の劣化部等は適切な処置を行う。 劣化塗膜やチョーキング・汚れ等を高圧水洗にて除去し、乾燥した清浄な面とする。				
下塗	アレス水性エポキシ樹脂 上水	0.13~0.20	4時間以上 7日以内	ローラー	0~10
				エアレス	10~15
上塗 (1回目)	アレスアクアシリコンACII 上水	0.13	2時間以上 7日以内	ローラー	3~5
		0.16		エアレス	
上塗 (2回目)	アレスアクアシリコンACII 上水	0.13	-	ローラー	3~5
		0.16		エアレス	

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態・塗装方法・環境などによって増減することがあります。

施工上の注意事項

- ① セメントモルタルやコンクリート面は含水率8%以下、pH10以下になるまで乾燥させてください。
- ② 躯体や構造からの漏水がある場合、止水処理を十分行ってください。
- ③ 躯体含水率が高い場合、断熱機能が十分でない結露の多い建物、換気効率の十分でない建物、漏水箇所の止水処理が十分でない場合、居住者の方の生活環境などの違いなどで、塗膜の持つ透湿性能以上の水蒸気量発生の場合は、塗膜がふくれることがあります。
- ④ シーリング材の上はフシや汚れが生じることがありますので、塗装は避けてください。やむを得ず塗装される場合は下塗の前に「シーラ」または「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」をご使用ください。
- ⑤ 気温5℃以下、湿度85%以上、降雨、降雪、強風が予想される場合は塗装をしないでください。
- ⑥ 旧塗膜の劣化が著しい部分はサンダー、ワイヤーブラシ等で除去し、加圧水洗後十分乾燥させてから塗装をしてください。
- ⑦ 気温0℃以下、40℃以上での保管は避けてください。
- ⑧ 軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業系サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じることがあります。

- ⑨ 旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗に「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」を塗装してください。
- ⑩ 過希釈の場合、ハジキ・光沢低下・色味変化などを生じる場合がありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- ⑪ ハケ塗りや補修塗りを行う際、ローラー塗りとの仕上り肌や希釈率の違いによる色相差が生じることがありますので、ご注意ください。
- ⑫ 旧塗膜がスタッコのような大柄模様の場合は各工程の塗料を十分に塗り込んでください。
- ⑬ 押出成型板・GRC板などはエポキシ樹脂下塗塗料「浸透形Mシーラー」などを2~3回に分けて十分塗付してください。
- ⑭ 弾性スタッコへの塗装はできません。
- ⑮ 下地補修部へ対しましては、必ずシーラー塗装を行ってください。
- ⑯ 汚れ、傷などにより補修塗料が必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ⑰ 濃彩色の塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類・家具類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。

ご使用上の注意事項

- 下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。
- 又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・ネリ巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施工員に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
- 例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
北関東 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223

東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603

中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもありますのでご了承ください。

(19年05月08日PNA) カタログNo.722
頒布価格 1,000円(税込)